

電子化作業実習について

「電子化作業実習」では、雑誌の電子化、授業の電子化、学位論文の電子化について実習していただきます。

本学で所蔵している図書・雑誌や本学で行われる授業及び学位論文等のすべてを電子化して利用者に提供できれば良いのですが、それぞれの資料には著作権がありますので、勝手に電子化することはできません。このため、最初に著作権者の意向や利用許諾の可否を確認し、許諾を得ることができた資料を電子化しています。

雑誌の電子化では、紙の雑誌の背表紙を裁断し、スキャンしてデータ化しています。

授業の電子化では、講師の許諾が得られた授業を撮影、編集して公開用映像を作成しています。

学位論文提出システムは、学生自身に作成した論文PDFをアップロードしてもらい、学位論文の収集をしています。

そして、これらの電子化データを電子図書館 Web サイトで公開・配信しています。

1 実施スケジュール

(1) 実習内容

	内容	実習場所	担当職員
実習①	【雑誌】の電子化(デモ)	マルチメディアホール	大塚・中條
実習②	【授業】の電子化	マルチメディア製作・編集室	溝口・樋口
実習③	学位【論文】提出システム	マルチメディアホール	桑野・山本

(2) 実習スケジュール

10/30(木)	16:40~17:10	30分	雑誌の電子化(デモ)(マルチメディアホール)	
10/31(金)	9:35~9:50	15分	実習についての説明(マルチメディアホール)	
			A班(6名)	B班(5名)
	9:50~11:30	100分	【授業】(編集室)	【論文】(ホール)
	11:30~12:30	(60分)	休憩(昼休み)	
	12:30~13:30	(60分)	講演3 (マルチメディアホール)	
	13:50~15:30	100分	【論文】(ホール)	【授業】(編集室)

・担当職員が次の実習場所にご案内します。

(3) 班分け(実習②③)

班	氏名(敬称略)	
A班 (6名)	高瀬、井庭、鶴川、實松、堀井、我喜屋	【授業】(編集室)から開始
B班 (5名)	山本、國富、庫元、岩本、椋田	【論文】(ホール)から開始

2 実習の概要

実習① 雑誌の電子化(デモ)

本学では雑誌を WEB 上で閲覧できるよう電子化を行っています。

本実習では実際に雑誌をスキャナで取り込み、WEB 上のコンテンツとして構成する作業のデモを行います。

1. 書誌情報の作成・電子化整理番号の付与

図書や雑誌(冊子体)と同様、登録には書誌・所蔵が必要となるため作成します。

2. 背の裁断

裁断機を用いて雑誌の背を裁断します。

3. 書誌情報の確認

[1].で登録した書誌とこれから取り込む冊子とが合致していることを確認します。

4. スキャン

5. カラーページ等の再読み込み

[4.]ではモノクロで取り込み、5.では必要なページのみカラー、グレースケールで取り込みを行います。

6. 頁削除

不要なページを削除します。

7. マスク処理

広告等を消去します。

8. 頁割付

取り込んだファイルにページ情報を入力します。

9. 目次入力

論文等のコンテンツごとに取り込んだファイルをまとめます。

10. 本構成処理

電子図書館で閲覧できるようにするために必要な処理です。

11. WEB上での確認

作成されたコンテンツに問題がないか確認します。

12. 電子化終了処理

実習② 授業アーカイブ実習

本学の授業撮影システム(授業アーカイブシステム)では、撮影の自動化及び講義資料の同期表示を実現し、さらに平成 24 年度からはハイビジョンによる自動撮影及びプロジェクター映像の同期撮影を開始しました。本実習では、授業アーカイブシステムの概要を紹介し、電子図書館公開前に行うアーカイブ映像の編集作業を体験していただきます。

1. 撮影スケジュールの登録

「コンテンツ関連付け制御システム(スケジュール自動撮影・編集システム)」に授業スケジュール(授業名・担当教員名・授業時間・教室等)を入力し、自動撮影スケジュールを登録します。【実習なし】

2. 授業映像の書誌・所蔵を登録

「図書館システム(LIMEDIO)」目録に、授業名・担当教員名・授業期間など書誌を作成します。次に所蔵情報を授業コマごとに作成し、授業コマごとに電子化整理番号を付与します。【実習なし】

3. 自動撮影

登録したスケジュールの日時に、教室備付けカメラで教室内の様子と、プロジェクターで映し出される授業に使用されたスライドの映像が自動的に撮影され映像ファイルが作成されます。【実習なし】

4. 映像の自動編集

「授業アーカイブシステム」により、スライドの映像が OCR 処理されスライドタイトル・スライド本文テキストが記録されます。また、スライド映像からスライドの切り替わりのタイミング(目次)が自動で認識され記録されます。スライドの切り替わりタイミングは、利用者が授業映像を視聴する時に映像の頭出し再生に利用されます。【実習なし】

5. 映像の手動編集

「コンテンツ関連付け制御システム」を使用して、[4.]で自動的に記録されたスライドタイトルやスライドの切り替わりタイミング(目次)の修正や、映像の編集を行います。【一部実習】

6. 電子図書館登録

[5.]で編集したアーカイブ映像のプレビュー再生を行って編集内容を確認します。正しく編集できたことが確認できたら、アーカイブ映像をコンテンツとして電子図書館に登録し公開します。【一部実習】

7. 電子図書館登録の確認

[6.]で電子図書館登録したコンテンツを電子図書館の Web ページから再生し、利用者が視聴できることを確認し、そのコンテンツの動作確認として記録します。【実習なし】

実習③ 学位論文提出システム実習

1. 学位論文の電子化作業

- 1 学生課から修了予定者リストをもらい、修了予定者が学位論文 PDF を学位論文提出システムから提出できるようアカウント登録を行います。
- 2.修了予定者が学位論文提出システムに論文情報および学位論文 PDF をアップロードします。
- 3.[2]で登録された論文情報とPDF から、学位論文の書誌・所蔵情報を作成し、論文毎に電子化整理番号を付与します。(実習なし)
- 4.学位論文 PDF を電子図書館のコンテンツとして登録します。(実習なし)

2. 電子化資料のWeb確認

電子化作業の締めくくりとして、夜間処理によって目録情報とリンクされた電子化データを、利用者が実際に利用するにあたって不備がないか、Web 上で確認します。電子図書館ホームページの「蔵書検索」(OPAC)で、該当する書誌を検索し、各電子化資料がどのように表示されるかを見ていただきます。確認して問題がなければ、最後に電子化終了処理を行って、電子化作業は完了です。

3 電子化作業フロー

